

**製品名: GluR-5 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11495**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	100kDa

**抗原情報**

遺伝子名	GRIK1
別名	GRIK1; GLUR5; Glutamate receptor; ionotropic kainate 1; Excitatory amino acid receptor 3; EAA3; Glutamate receptor 5; GluR-5; GluR5
遺伝子 ID	2897.0
SwissProt ID	P39086
免疫原	抗血清はヒト GluR5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

**背景**

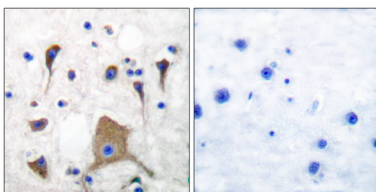
グルタミン酸受容体は、哺乳類の脳において主要な興奮性神経伝達物質受容体であり、様々な正常な神経生理学的過程において活性

化されます。この遺伝子産物は、4つのサブユニットから構成され、リガンド活性化イオンチャンネルとして機能するカイニン酸ファミリーのグルタミン酸受容体に属します。この遺伝子によってコードされるサブユニットは、第2膜貫通ドメイン内でRNA編集(CAG→CGG; Q→R)を受け、イオンの流れの特性を変化させると考えられています。この遺伝子では、選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする転写産物バリエーションが生じることが知られています。[RefSeq 提供、2008年7月]、代替産物：追加のアイソフォームが存在すると思われる、機能：イオンチャンネル型グルタミン酸受容体。L-グルタミン酸は、中枢神経系の多くのシナプスにおいて興奮性神経伝達物質として作用します。興奮性神経伝達物質 L-グルタミン酸の結合は構造変化を引き起こし、陽イオンチャンネルの開口につながり、化学信号を電気インパルスに変換します。その後、受容体は急速に脱感作し、結合した作動薬の存在を特徴とする一時的な不活性化状態に移行します。網膜から視床下部への光情報の伝達に参与している可能性があります。、その他：グルタミン酸のシナプス後作用は、選択的作動薬に応じて命名された様々な受容体によって媒介されます。この受容体は、ドモ酸 > カイニン酸 > L-グルタミン酸 = キスカル酸 > CNQX = DNQX > AMPA > ジヒドロカイニン酸 > NMDA に結合します。、RNA 編集：部分的に編集されています。、類似性：グルタミン酸依存性イオンチャンネル (TC 1.A.10) ファミリーに属します。、サブユニット：孔形成グルタミン酸受容体サブユニットのホモ四量体またはヘテロ四量体。四量体は二量体の二量体化によって形成される可能性があります (可能性が高い)。編集されていないバージョン (Q) は機能的なカイニン酸依存性ホモ量体チャンネルに組み立てられますが、編集されたバージョン (R) は単独で発現してもチャンネル活性を生成できません。編集されたバージョンと編集されていないバージョンの両方が、GRIK4 および GRIK5 と機能的なチャンネルを形成できます。、組織特異性：小脳と視床下部の視交叉上核 (SCN) に最も多く存在します。、

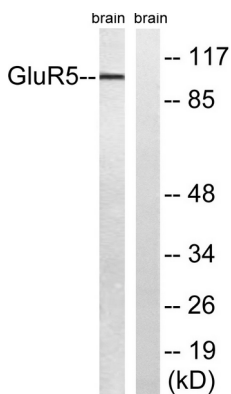
## 研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

## 画像データ



GluR5 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



GluR5 抗体を用いたマウス脳ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。